

Ⅲ. 調査結果の要約

1 区の施策および評価について

(1) 住みごこち

(本文65ページ)

練馬区の住みごこちを聞いたところ、「住みよい」(42.6%)が4割を超え、「まあ住みよい」(52.2%)が5割を超えており、この2つを合わせた『肯定的評価』(94.8%)が9割半ばとなっている。一方、「あまり住みよくない」(2.4%)と「住みにくい」(0.2%)を合わせた『否定的評価』(2.6%)はわずかとなっている。

(2) 練馬区が住みよいと感じるところ

(本文70ページ)

練馬区が住みよいと感じるところを聞いたところ、「みどりが豊かで環境がよい」(50.2%)が5割で最も多く、次いで「買い物がしやすい」(46.8%)、「治安が比較的よい」(43.4%)、「交通の便がよい」(42.3%)、「防災の面で比較的安心である」(17.3%)などの順となっている。

(3) 練馬区が住みにくいとと感じるところ

(本文74ページ)

練馬区が住みにくいとと感じるところを聞いたところ、「交通の便が悪い」(20.2%)が2割で最も多く、次いで「健康や医療に関する施設やサービスが不足している」(14.3%)、「働く場所があまりない」(11.7%)、「買い物が不便である」(11.5%)、「近隣と疎遠で地域住民の関係が希薄である」(11.4%)などの順となっている。

(4) 定住意向

(本文78ページ)

これからも引き続き練馬区に住みたいと思うか聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(37.7%)と「当分は住み続けたい」(43.5%)を合わせた『定住意向』(81.2%)が8割を超えている。一方、「できれば区外へ移りたい」(3.1%)と「区外へ移りたい」(1.5%)を合わせた『転出意向』(4.7%)はわずかとなっている。

(5) 練馬区への愛着

(本文82ページ)

練馬区に愛着を感じるか聞いたところ、「愛着を感じる」(35.4%)と「どちらかという愛着を感じる」(43.7%)を合わせた、愛着を『感じる』(79.1%)が約8割となっている。一方、「どちらかという愛着を感じない」(4.6%)と「愛着を感じない」(2.9%)を合わせた、愛着を『感じない』(7.4%)は1割近くとなっている。

(6) 練馬区に対する誇り

(本文86ページ)

練馬区に住んでいることに誇りを感じるか聞いたところ、「誇りを感じる」(14.9%)と「どちらかという誇りを感じる」(36.1%)を合わせた、誇りを『感じる』(51.0%)が5割を超えている。一方、「どちらかという誇りを感じない」(9.0%)と「誇りを感じない」(5.4%)を合わせた、誇りを『感じない』(14.3%)は1割半ばとなっている。

(7) 区施策への満足度と必要性

(本文91・93ページ)

満足度について『満足評価』と『不満評価』のそれぞれの上位5項目は以下のようになっている。

『満足評価』上位5項目		『不満評価』上位5項目	
①みどりの保全と創出	(70.7%)	①交通安全対策	(47.8%)
②健康づくりの推進	(67.3%)	②駅周辺のまちづくり	(39.0%)
③循環型社会づくり	(64.0%)	③鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備	(37.8%)
④窓口サービス等の利便性の向上	(57.8%)	④観光の推進	(36.9%)
⑤都市農業の振興と都市農地の保全	(56.9%)	⑤区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり	(36.5%)

必要性について『必要性が高い評価』と『必要性が低い評価』のそれぞれの上位5項目は以下のようになっている。

『必要性が高い評価』上位5項目		『必要性が低い評価』上位5項目	
①医療環境の充実	(81.0%)	①観光の推進	(38.3%)
②災害に強い安全なまちづくり	(79.7%)	②地域活動の活性化と多文化共生社会の実現	(33.5%)
②交通安全対策	(79.7%)	③平和と人権の尊重、男女共同参画の推進	(30.5%)
④健康づくりの推進	(77.7%)	④文化・生涯学習・スポーツの振興	(27.3%)
⑤高齢者福祉	(76.3%)	⑤都市農業の振興と都市農地の保全	(24.3%)

(8) 施策への要望

(本文102ページ)

特に力を入れてほしい施策を第1位から第3位まで挙げてもらった。その3つを合わせた累計をみると、「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」(25.2%)が2割半ばと最も多く、次いで「駅周辺のまちづくり」(16.7%)、「子育て支援」(16.6%)、「高齢者福祉」(16.3%)、「医療環境の充実」(16.0%)などの順となっている。

(9) 区政情報の入手先

(本文112ページ)

区政の情報を主に何から入手しているか聞いたところ、「ねりま区報」(60.8%)が約6割で最も多く、次いで「区ホームページ(携帯サイトを含む)」(45.7%)、「わたしの便利帳」(17.7%)、「掲示板」(14.4%)などの順となっている。

(10) 『ねりま区報』の閲読度

(本文114ページ)

『ねりま区報』をどの程度読んでいるか聞いたところ、「詳しく読んでいる」(10.4%)と「必要な記事は読んでいる」(42.4%)を合わせた『読んでいる』(52.8%)が5割を超えている。一方、「あまり読んでいない」(18.4%)と「まったく読んでいない」(24.8%)を合わせた『読んでいない』(43.2%)は4割を超えている。

(10-1) 『ねりま区報』の満足度

(本文117ページ)

『ねりま区報』を「詳しく読んでいる」または「必要な記事は読んでいる」と答えた方(589人)に、『ねりま区報』にどの程度満足しているか聞いたところ、「とても満足している」(9.5%)と「満足している」(78.6%)を合わせた『満足評価』(88.1%)が9割近くとなっている。一方、「あまり満足していない」(8.8%)と「満足していない」(1.0%)を合わせた『不満評価』(9.8%)は1割となっている。

(10-2) 『ねりま区報』の入手手段

(本文120ページ)

『ねりま区報』を「詳しく読んでいる」または「必要な記事は読んでいる」と答えた方(589人)に、『ねりま区報』の入手手段を聞いたところ、「新聞折り込みで入手している」(67.9%)が7割近くで最も多く、次いで「駅・コンビニエンスストア・区立施設などで入手している」(28.4%)、「パソコン・スマートフォンなどで閲覧している」(6.5%)、「区報送付サービスで入手している」(3.9%)の順となっている。

(10-3) 『ねりま区報』でよく閲覧している記事

(本文122ページ)

『ねりま区報』を「詳しく読んでいる」または「必要な記事は読んでいる」と答えた方(589人)に、『ねりま区報』でよく閲覧している記事を聞いたところ、「『お知らせ』『講座・催し』『高齢者』『健康・衛生』『子ども・教育』などのお知らせ」(76.7%)が8割近くで最も多く、次いで「1面の記事」(44.8%)、「医療関係機関のお知らせ記事」(33.6%)、「2面や最終面などの特集面」(17.8%)などの順となっている。

(10-4) 『ねりま区報』を読んでいない理由

(本文124ページ)

『ねりま区報』を「あまり読んでいない」または「まったく読んでいない」と答えた方(482人)に、その理由を聞いたところ、「新聞を購読していない」(50.8%)が約5割と最も多く、次いで「入手方法がわからない」(27.4%)、「必要な記事がない」(20.5%)などの順となっている。

(11) 『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容（企画） （本文126ページ）

『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容（企画）を聞いたところ、「区立施設の紹介」（40.5%）が約4割で最も多く、次いで「区が推進している施策の詳しい紹介」（29.5%）、「区内の名所・公園の紹介」（26.2%）、「区民や地域で活動する団体の紹介」（19.6%）などの順となっている。

(12) 『ねりま区報』の配布方法の意向 （本文129ページ）

『ねりま区報』の配布方法の意向を聞いたところ、「今のままでよい」（69.1%）が約7割で最も多く、次いで「全世帯に配布すべき」（10.1%）、「送付サービスをもっと拡大すべき」（6.2%）、「配布施設をもっと増やすべき」（5.5%）の順となっている。

(13) 『ねりま区報』の発行回数の意向 （本文132ページ）

『ねりま区報』の発行回数の意向を聞いたところ、「今のままでよい（月3回）」（49.9%）が5割と最も多く、次いで「月1回にすべき」（22.0%）、「月2回にすべき」（18.2%）、「毎週発行など回数を増やすべき」（0.6%）の順となっている。

(14) 『ねりま区報』の情報量の意向 （本文135ページ）

『ねりま区報』の情報量の意向を聞いたところ、「今のままでよい」（77.5%）が8割近くと最も多く、次いで「もっと減らすべき」（6.4%）、「もっと増やすべき」（4.4%）の順となっている。

(15) 練馬区情報番組『ねりまほっとライン』の認知度 （本文137ページ）

練馬区情報番組『ねりまほっとライン』を知っているか聞いたところ、「知っている」（23.3%）が2割を超えている。一方、「知らない」（70.3%）は7割となっている。

(15-1) 練馬区情報番組『ねりまほっとライン』の視聴度 （本文139ページ）

練馬区情報番組『ねりまほっとライン』を「知っている」と答えた方（260人）に、番組の視聴度を聞いたところ、「いつも（ほぼ毎回）見ている」（3.1%）と「興味のある内容のときだけ見ている」（43.5%）を合わせた『見ている』（46.5%）が5割近くとなっている。一方、「見ていない」（53.5%）は5割を超えている。

(16) 『区ホームページ』の閲覧状況 （本文141ページ）

『区ホームページ』の閲覧状況を聞いたところ、「よく見ている」（1.4%）と「必要に応じて見ている」（45.1%）を合わせた『見ている』（46.5%）が5割近くとなっている。一方、「ほとんど見ていない」（34.3%）が3割半ば、「見られる環境がない」（6.0%）はわずかとなっている。

(16-1) 『区ホームページ』の閲覧情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度 (本文143ページ)

『区ホームページ』を「よく見ている」または「必要に応じて見ている」と答えた方(519人)に、閲覧している情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度を聞いたところ、「とても満足している」(2.1%)と「満足している」(61.8%)を合わせた『満足評価』(64.0%)が6割半ばとなっている。一方、「あまり満足していない」(30.4%)と「満足していない」(3.3%)を合わせた『不満評価』(33.7%)は3割を超えている。

(16-2) 『区ホームページ』の閲覧時に主に利用している機器 (本文145ページ)

『区ホームページ』を「よく見ている」または「必要に応じて見ている」と答えた方(519人)に、閲覧時に主に利用している機器を聞いたところ、「スマートフォン(高性能携帯電話)」(49.7%)が5割で最も多く、次いで「パソコン」(38.3%)、「携帯電話」(4.8%)、「タブレット」(2.7%)の順となっている。

(17) 知っている練馬区公式SNSアカウント (本文147ページ)

知っている練馬区公式SNSアカウントを聞いたところ、「Twitter」(13.9%)が1割を超えて最も多く、次いで「LINE」(9.3%)、「YouTube」(6.3%)、「Facebook」(6.1%)の順となっている。一方、「知っているものはない」(61.4%)は6割を超えている。

(18) 区がSNSを活用して情報発信を行うこと (本文149ページ)

区がSNSを活用して情報発信を行うことについて聞いたところ、「積極的に活用すべき」(35.3%)と「どちらかという活用すべき」(26.9%)を合わせた『活用すべき』(62.2%)が6割を超えている。一方、「どちらかという活用すべきではない」(1.6%)と「活用すべきではない」(0.9%)を合わせた『活用すべきではない』(2.5%)はわずかとなっている。

(19) 『わたしの便利帳』の所有状況 (本文151ページ)

『わたしの便利帳』の所有状況を聞いたところ、「ある」(64.2%)が6割半ばで最も多く、次いで「わからない」(22.1%)、「ない」(10.2%)の順となっている。

(19-1) 『わたしの便利帳』の利用頻度 (本文153ページ)

自宅に『わたしの便利帳』が「ある」と答えた方(716人)に、便利帳の利用頻度を聞いたところ、「頻繁に利用する」(1.1%)、「月に数回程度は利用する」(5.2%)、「年に数回程度は利用する」(32.3%)の3つを合わせた『利用する』(38.5%)が4割近くとなっている。一方、「以前は利用したが、最近では利用していない」(24.4%)が2割半ば、「利用していない」(33.5%)は3割を超えている。

(20) 今後の情報発信のあり方について、区が力を入れていくべきこと (本文155ページ)

今後の情報発信のあり方について、区が力を入れていくべきことについて聞いたところ、「検索しやすいホームページの構築」(50.9%)が約5割で最も多く、次いで「ねりま区報による情報発信の充実」(40.5%)、「SNSを活用した即時性のある情報発信」(29.3%)、「アプリを活用した分野ごとの情報発信」(10.0%)の順となっている。

(21) 区政情報を入手する際に利用したいSNS等のサービス (本文157ページ)

区政情報を入手する際に利用したいSNS等について聞いたところ、「LINE」(42.1%)が4割を超えて最も多く、次いで「Twitter」(26.9%)、「YouTube」(19.4%)、「Instagram」(16.8%)などの順となっている。

(22) SNS等で区から受け取りたい情報 (本文159ページ)

SNS等で区から受け取りたい情報について聞いたところ、「健康・医療」(52.3%)が5割を超えて最も多く、次いで「防災・防犯」(36.1%)、「イベント・講座」(29.4%)、「ごみ、リサイクル・環境」(27.2%)の順となっている。

(23) 知りたい区政情報がどの程度伝わっているか (本文161ページ)

知りたい区政情報がどの程度伝わっているか聞いたところ、「十分伝わっている」(2.2%)と「ある程度伝わっている」(52.0%)を合わせた、知りたい区政情報が『伝わっている』(54.3%)が5割半ばとなっている。一方、「あまり伝わっていない」(29.1%)と「まったく伝わっていない」(6.0%)を合わせた、知りたい区政情報が『伝わっていない』(35.1%)は3割半ばとなっている。

(24) 区政情報が伝わっていないと思う主な理由 (本文163ページ)

知りたい区政情報が「あまり伝わっていない」または「まったく伝わっていない」と答えた方(391人)に、伝わっていないと思う主な理由について聞いたところ、「情報の入手方法がよく分からない」(41.4%)が4割を超えて最も多く、次いで「調べても知りたい情報にたどり着かない」(27.6%)、「知りたい情報があるが確認する時間がない」(27.4%)、「情報が多く、他の情報に埋もれて見逃してしまう」(16.4%)の順となっている。

2 新型コロナウイルス感染症について

(1) 新型コロナウイルス感染症に関する情報の入手経路 (本文165ページ)

新型コロナウイルス感染症に関する情報の入手経路を聞いたところ、「テレビやラジオ」(84.9%)が8割半ばで最も多く、次いで「新聞」(33.0%)、「政府や東京都、練馬区など行政機関のホームページ」(27.9%)などの順となっている。

(2) 新型コロナウイルス感染症に対して不安を感じる程度 (本文167ページ)

新型コロナウイルス感染症に対してどの程度不安を感じているか聞いたところ、「強く感じている」(29.7%)、「感じている」(38.2%)、「少しは感じている」(24.0%)の3つを合わせた『不安を感じている』(91.9%)が9割を超えている。一方、「感じていない」(5.6%)はわずかとなっている。

(3) 新型コロナウイルスワクチンの接種状況・今後の接種意向 (本文169ページ)

接種状況と今後の接種の意向を聞いたところ、「推奨される回数をすでに接種した」(71.7%)と「推奨される回数までこれから接種する」(11.3%)を合わせた『接種意向あり』(83.0%)が8割を超えている。一方、「これまで何度か接種したが、今後は接種しない」(7.6%)と「これまで接種しておらず、今後も接種しない」(5.7%)を合わせた『接種意向なし』(13.4%)が1割を超えている。

(3-1) 新型コロナウイルスワクチンを接種したいと思わない理由 (本文171ページ)

新型コロナウイルスワクチンの接種について「これまで何度か接種したが、今後は接種しない」または「これまで接種しておらず、今後も接種しない」と答えた方(149人)に、接種したいと思わない理由を聞いたところ、「効果に疑問があるから」(33.6%)が3割を超えて最も多く、次いで「将来、健康被害が生じるのではないかと不安だから」(24.2%)、「副反応が心配だから」(20.1%)などの順となっている。

(3-2) 新型コロナウイルスワクチン接種について疑問や不安を抱くようになった要因 (本文173ページ)

新型コロナウイルスワクチンの接種について「効果に疑問があるから」、「副反応が心配だから」、「将来、健康被害が生じるのではないかと不安だから」と答えた方(116人)に、どのような情報に接して、疑問や不安を抱くようになったか聞いたところ、「テレビやラジオ」(24.1%)が2割半ばで最も多く、次いで「SNS(TwitterやFacebookなど)の情報」(19.0%)、「家族や友人からの話」(16.4%)などの順となっている。

(4) 新型コロナウイルス感染症に関連して区に望む取り組み (本文175ページ)

新型コロナウイルス感染症に関連して区に望む取り組みを聞いたところ、「ワクチン接種体制の充実」(51.3%)が5割を超えて最も多く、次いで「生活が苦しくなった方への支援」(37.0%)、「新型コロナウイルスに関する情報発信」(31.7%)、「様々な行政手続のオンライン化の推進」(24.1%)などの順となっている。

3 電子申請を活用した区民サービスの向上について

(1) 電子申請の利用意向 (本文177ページ)

電子申請を利用したいかを聞いたところ、「利用したい」(40.5%)と「どちらかという利用したい」(25.2%)を合わせた『利用したい』(65.7%)が6割半ばとなっている。一方、「どちらかという利用したくない」(19.6%)と「利用したくない」(8.6%)を合わせた『利用したくない』(28.2%)が3割近くとなっている。

(1-1) 電子申請を利用したくないと思う理由 (本文179ページ)

電子申請の利用について「どちらかという利用したくない」または「利用したくない」と答えた方(314人)に、電子申請を利用したくないと思う理由を聞いたところ、「窓口で職員と対面で手続きした方が安心だから」(56.7%)が6割近くと最も多く、次いで「パソコンやスマートフォンなどの操作が苦手だから」(50.0%)、「セキュリティに不安があるから」(29.6%)、「パソコンやスマートフォンを持っていないから」(17.5%)の順となっている。

(1-2) 区の電子申請の利用状況 (本文181ページ)

電子申請の利用について「利用したい」または「どちらかという利用したい」と答えた方(733人)に、これまで利用したことのある区の電子申請を聞いたところ、「申請や届出などの手続き(予防接種の申込み、児童手当現況届の提出等)」(44.7%)が4割半ばで最も多く、次いで「税金等の支払い(スマートフォンを使ったクレジットカードや電子マネーによる支払い)」(28.5%)、「図書館の資料予約」(26.7%)、「公共施設利用のインターネット予約」(25.8%)などの順となっている。

(2) 電子申請を利用したことがない理由 (本文183ページ)

区の電子申請を「利用したことがない」と答えた方(170人)に、電子申請を利用したことがない理由を聞いたところ、「電子申請ができることを知らなかったから」(37.1%)が4割近くと最も多く、次いで「自分に必要な手続きが電子申請に対応していなかったから」(25.9%)、「窓口で職員と対面で手続きした方が安心だから」(13.5%)、「パソコンやスマートフォンなどの操作が苦手だから」(13.5%)などの順となっている。

(3) 電子申請の導入(オンライン化)を望む区の手続き (本文185ページ)

電子申請の導入(オンライン化)を望む区の手続きについて聞いたところ、「住民票や戸籍の証明書発行の申込み」(54.4%)が5割半ばと最も多く、次いで「各種給付金や補助金の申請」(38.7%)、「住所変更(転入・転出等の手続き)」(32.8%)、「税金の申告に関する手続き」(20.3%)などの順となっている。

(4) 区のデジタル化の取り組みで力を入れてほしい分野

(本文187ページ)

区のデジタル化の取り組みで力を入れてほしい分野を聞いたところ、「各種証明書の発行手数料等のキャッシュレス化」(51.5%)が5割を超えて最も多く、次いで「ICTを活用した災害時等における対応力の強化」(28.0%)、「スマホ教室の開催などによるデジタル活用支援」(16.2%)、「アプリやWeb等を活用したプッシュ型情報発信の充実」(16.1%)などの順となっている。

4 省エネルギーに関する意識や取り組みについて

(1) 節電等の省エネルギーの取り組み

(本文189ページ)

節電等の省エネルギーの取り組みについて聞いたところ、「積極的に取り組んでいる」(10.6%)、「負担にならない程度に取り組んでいる」(73.1%)、「今後取り組む予定である」(3.7%)の3つを合わせた『取り組んでいる』(87.4%)が9割近くとなっている。一方、「取り組んでいない(取り組む予定はない)」(8.1%)が1割近くとなっている。

(1-1) 具体的な取り組み内容

(本文191ページ)

節電等の省エネルギーの取り組みについて「積極的に取り組んでいる」、「負担にならない程度に取り組んでいる」、「今後取り組む予定である」と答えた方(974人)に、どのような取り組みを行っているか(行う予定か)聞いたところ、「冷暖房の適切な運転(温度設定、運転時間、カーテンを閉める、扇風機の併用等)」(80.3%)が8割と最も多く、次いで「電化製品のスイッチをこまめに切る・未使用時はプラグを抜く」(69.2%)、「LED照明への切替」(53.5%)、「近いところへは車ではなく、徒歩か自転車で移動する」(41.3%)などの順となっている。

(1-2) 節電等の省エネルギーに取り組まない理由

(本文194ページ)

節電等の省エネルギーの取り組みで「取り組んでいない(取り組む予定はない)」と答えた方(90人)に、そのように考える理由を聞いたところ、「効果が実感できないから」(32.2%)が3割を超えて最も多く、次いで「関心がない、または必要性を感じないから」(28.9%)、「手間がかかるから」(24.4%)、「費用がかかるから」(22.2%)の順となっている。

(2) 自宅での再生可能エネルギー・省エネルギー設備の導入意向

(本文196ページ)

自宅での再エネ・省エネ設備の導入意向について聞いたところ、「既に導入している」(25.5%)と「導入する予定」(9.1%)を合わせた『導入意向あり』(34.6%)が3割半ばとなっている。一方、「導入していない(導入する予定はない)」(60.4%)が6割と多くなっている。

(2-1) 再エネ・省エネ設備の導入理由

(本文198ページ)

省エネ設備の導入について「既に導入している」または「導入する予定」と答えた方(386人)に、導入理由を聞いたところ、「光熱費の削減のため」(80.1%)が8割で最も多く、次いで「地球温暖化対策のため」(55.7%)、「災害時への備えのため」(25.1%)、「補助金や税の優遇措置があったため」(13.5%)などの順となっている。

(2-2) 再エネ・省エネ設備の導入状況

(本文200ページ)

再エネ・省エネ設備についてどの設備を導入(予定)しているか聞いたところ、「LED照明」(77.5%)が8割近くで最も多く、次いで「太陽光発電設備」(16.3%)、「住宅の断熱改修(窓以外も含む)」(16.1%)、「家庭用燃料電池システム(エネファーム)」(14.5%)などの順となっている。

(2-3) 導入した設備の効果

(本文202ページ)

省エネ設備の導入について「既に導入している」と答えた方に導入した設備の効果を聞いたところ、「太陽光発電設備」(45人)で「おおいに感じている」(44.4%)と「やや感じている」(37.8%)を合わせた、効果を『感じている』(82.2%)が8割を超えている。

(2-4) 再エネ・省エネ設備を導入していない理由

(本文203ページ)

自宅での再エネ・省エネ設備の導入について「導入していない(導入する予定はない)」と答えた方(674人)に再エネ・省エネ設備を導入していない理由を聞いたところ、「設備の導入費用が高いから」(42.3%)が4割を超えて最も多く、次いで「賃貸物件だから」(32.5%)、「集合住宅だから」(29.2%)、「設備に関する情報が少ない(わからない)から」(21.4%)などの順となっている。

(3) 再エネ・省エネ設備の導入促進にあたり区が力を入れるべき取り組み

(本文205ページ)

再エネ・省エネ設備の導入促進にあたり区が力を入れるべき取り組みについて聞いたところ、「補助制度の継続」(58.2%)が6割近くと最も多く、次いで「補助対象となる設備の拡大」(55.4%)、「設備等の導入による省エネ効果に関する情報提供」(40.8%)、「地球温暖化、脱炭素についての啓発活動」(20.5%)などの順となっている。

(4) 脱炭素社会の実現に向けて導入したい設備

(本文207ページ)

今後、補助金や税の優遇措置が拡充された場合に導入したい設備について聞いたところ、「太陽光発電設備」(31.6%)が3割を超えて最も多く、次いで「LED照明」(30.9%)、「電気自動車(燃料電池自動車、プラグインハイブリッド車を含む)」(23.4%)、「住宅の断熱改修(窓以外も含む)」(22.1%)などの順となっている。

(5) 脱炭素社会に向けて区が力を入れるべき取り組み

(本文210ページ)

脱炭素社会の実現に向け区が力を入れるべき取り組みについて聞いたところ、「食品ロスの削減」(46.1%)が4割半ばで最も多く、次いで「みどりを増やす取り組み」(33.0%)、「リサイクル(3R)の推進」(31.2%)、「省エネルギー・再生可能エネルギー設備設置への補助」(31.0%)などの順となっている。

